

若年シングルマザーに 運転免許取得を

答 提案を調査研究し取り組んでいく



浦崎 みゆき 議員

問 本町の若年のシングルマザー所帯を伺う。また母子世帯の推移の方はどうか。

こども課長 母子世帯数は577世帯あり34歳以下で若年母子世帯は24.4%である。また推移は28年度との比較は、92名増加している。

問 他の市町村で免許取得助成が行われている所はあるか。

こども課長 一部の地域では確認しているのは、2町村が実施予定と確認できている。

問 生活困窮者自立支援の中に、運転免許取得を組み込んだ支援をぜひ導入に向けて検討していただきたい。

こども課長 母子世帯の就労支援等、自立のため必要なものと十分認識している。免許取得の自立支援に向けて、調査検討を進めていきたい考えである。

不登校支援にメタバース空間の活用を

問 本町の不登校生徒数の、小中学校の推移を問う。

教育長 30日以上欠席した児童生徒の人数は、令和2年度小学生52人、中学生37人、令和6年度で小学生が105人、中学生115人である。

問 心の教室相談員の配置人員と、対応した人数を問う。

学校教育課長 心の教室相談員は各学校に1名配置し、令和6年度の相談は小学校で児童が延べ4461名、中学校で生徒611名に対応した。



問 登校支援員やボランティアの実績を問う。

教育長 登校支援員は各学校、心の教室相談員が行いボランティアの支援は無い。支援利用者は令和6年度、小学校で延べ111名、中学校で30名である。

問 登校支援員さんが数多くいれば、もっと登校支援ができるのではないか。

学校教育課長 登校支援員が不足との意見は学校からは伺っていない。

問 仮想空間のメタバースの支援は、どの支援にも届いていない居場所づくりとして導入は広がっており学習・相談支援がなされている。ぜひ検討していただきたい。

教育長 いろいろ取り組みのほうは考えている。デジタル的な解決、直接人が寄り添ったの解決など多々あり研究していく。